

Google タグ ゲートウェイ (GTG) と同意管理について

このドキュメントは、Google タグゲートウェイ (Google Tag Gateway、以下「GTG」) を利用している、または利用を検討しているサイトにおいて、STRIGHT による同意管理を正しく機能させるための説明資料です。GTG の仕組み、同意モード (Consent Mode) への影響、GTG が有効かどうかの確認方法、そして「late (遅延) 同意シグナル」が検出された場合の推奨対応をまとめています。

参考 : [STRIGHT は Google 同意モード \(Consent Mode\) v2 に対応しています。](#)

GTG とは何か、そして同意にどう影響するか

Google タグゲートウェイ (GTG) は、Google タグ (gtm.js/gtag.js) を Google のドメイン (例 : googletagmanager.com) からではなく、お客様自身のファーストパーティドメインから配信する仕組みです。これにより、広告ブロッカーやブラウザのトラッキング制限 (ITP/ETP など) の影響を受けにくくなり、計測の耐久性が向上します。

一方で、GTG の導入方法によっては同意管理に影響が生じます。特に CDN によるワンクリックインジェクション (例 : Cloudflare、Akamai、Fastly などの管理画面でトグルを ON にするだけの導入方式) では、Google タグのスクリプトがページの非常に早い段階で読み込まれます。その結果、タグの読み込み順序 (load order) をお客様側で制御できなくなることが多く、STRIGHT が同意のデフォルト値 (同意のデフォルトのコマンド) を設定するより前に Google タグが実行されてしまう場合があります。

このように、Google タグが同意状態を確定する前に発火・同意状態を読み取ってしまう現象を「late (遅延) 同意シグナル」と呼びます。late 同意シグナルが発生すると、Google 側がそのシグナルを非準拠とみなす可能性があり、GDPR をはじめとするプライバシー規制への適合や計測の正確性に影響します。

要点 : ワンクリック CDN インジェクションによる GTG 導入では、スクリプトの読み込み順序をお客様が制御できないケースが多く、これが late 同意シグナルの主な原因となります。

Google 公式の GTG ドキュメント

GTG の詳細については、以下の Google 公式ドキュメントをご参照ください。

- [Google タグ ゲートウェイ ガイド](#)
- [CDN + SGTM を使用した Google タグ ゲートウェイ](#)
- [タグ マネージャーでの同意モードのサポート](#)

最新の URL・仕様は Google 側で変更される場合があります。導入前に上記公式ドキュメントで最新情報をご確認ください。

タグが GTG に登録されているかの確認方法

お客様のサイトで GTG が有効になっているか（タグが GTG に enroll されているか）は、STRIGHT では自動判定できません。以下のいずれかの方法で手動でご確認ください。

方法 A：Google タグマネージャー（GTM）の管理画面で確認する

1. Google タグマネージャーにログインします。
2. 上部ナビゲーションの「管理（Admin）」をクリックします。コンテナ設定内に「Google タグゲートウェイ（Google tag gateway）」の項目があるか確認します。設定済みの場合、GTG が有効であることを示すバッジや表示が確認できます。

方法 B：CDN の管理画面で確認する

- Cloudflare など GTG を提供する CDN の管理画面にログインし、対象ドメインの「Google Tag Gateway」設定ページを開きます。トグルが ON になっていれば、そのサイトで GTG が有効です。

方法 C：配信ドメインとタグ読み込み元を確認する

- ブラウザの開発者ツールや Google Tag Assistant で、gtm.js/gtag.js がどのドメインから配信されているかを確認します。Google のドメインではなく、お客様自身のドメイン（例：cdn.example.com/gtm.js）から配信されている場合、GTG が有効です。

注：GTG ではコンテナファイル名（既定は gtm.js）を変更できるため、ソースコードを gtm.js で検索してもヒットしない場合があります。その際は配信元ドメインで判断してください。

late 同意シグナルが検出され、GTG 登録が確認された場合の対応

STRIGHT の診断で late 同意シグナルが検出され、かつそのタグが GTG に登録されていることが確認された場合、次のいずれかの対応を行ってください。

推奨：同意モード Advanced（Advanced Consent Mode）の採用

- 同意モード Advanced を採用し、必要に応じて以下を有効化してください。
- Data Transmission Controls（データ送信の制御）
- Global Consent Defaults（グローバル同意デフォルト）
- お客様の地域要件（EEA／英国／スイスなど）に応じて、同意デフォルトを適切に設定してください。

代替案

上記が難しい場合は、以下のいずれかを検討してください。

- すべてのタグを GTM コンテナに集約し、GTM を GTG 経由でデプロイする。個別タグではなく Google タグマネージャーコンテナを GTG で配信する構成に移行します。
- GTG を手動でセットアップ（manual GTG）し、スクリプトのインポート順序をお客様側で制御できるようにする。ワンクリック CDN インジェクションではなく、読み込み順序を管理できる手動構成に切り替えます。

- Google 同意モードと Tag Auto Control 機能の併用は不可です。Google 関連のタグが二重制御されないよう、Tag Auto Control 機能によるタグ制御は行わず、Google 同意モードによる制御のみをご利用ください。
- Google 同意モードタグを HTML 側に直接設定する場合は、①STRIGHT Google 同意モードタグ → ②STRIGHT バナータグ → ③GTM スニペット（又は Google Global Tag）の順序で埋め込んでください。

補足：GTGを無効化（ロールバック）すればlate 同意シグナルは解消できますが、その場合 GTG によるファーストパーティ計測のメリットを失います。上記の対応であれば、GTG のメリットを維持したままタイミングの問題を解決できます。

なぜ同意モード Advanced（Advanced Consent Mode）が GTG 有効タグに推奨されるのか

同意モード Advanced は、GTG が有効なタグにとって推奨される同意メカニズムです。その理由は、同意モード Advanced が手動 GTG（manual GTG）と互換性があるためです。

同意モード Advanced では、Google タグは起動時に同意のデフォルト状態（通常は「denied（拒否）」）を適用した状態で読み込まれます。同意が得られるまでの間、タグはクッキーを発行せず、ping のみを Google に送信し、ユーザーが同意した時点で完全な測定データの送信へと切り替わります。

この仕組みにより、タグの読み込み順序への依存がなくなり、たとえ GTG によってタグが早期に読み込まれても、同意が得られる前に同意済みであるかのようにデータを収集することはありません。すなわち、late 同意シグナルが「設計上許容される」状態になります。

これに対し、同意モード Basic（Basic Consent Mode）は同意が付与されるまでタグを完全にブロックする方式のため、CDN によって既にタグが読み込まれてしまう GTG 環境では機能しません。したがって、GTG を利用するサイトでは同意モード Advanced が推奨されます。